

## 茨城県近代美術館 平成 21 年度の企画展

4月22日（水）～7月5日（日）

### 照沼コレクション展

茨城県近代美術館は、茨城県在住の照沼氏から平成19年度に260点、平成20年度にも71点の版画作品の寄贈を受けました。清宮質文（せいみやなおぶみ）、浜田知明（はまだちめい）、秀島由己男（ひでしまゆきお）など、戦後日本を代表する版画家たちのコレクションを紹介することにより、ひとりの美術愛好家が、秘やかな楽しみとして約30年の年月をかけて蒐集を続けてきた作品の数々を、美術館という空間の中で、コレクターの思いに寄り添いながら鑑賞していただくと共に、多様な展開を繰り広げてきた日本の戦後の版画の様々な表現をご覧ください。

8月8日（土）～9月23日（水・祝）

### 生誕130年 富田溪仙（とみたけいせん）展

福岡県出身の日本画家富田溪仙（1879-1936）の回顧展。自在な筆遣いによって画家自身の感興を自由闊達に表現し、小川芋銭と同様に新南画の代表画家として高く評価されています。横山大観に認められ、日本美術院を発表の場としながら、異色の作家として活躍しました。

10月3日（土）～10月18日（日）

### 茨城県芸術祭美術展覧会

茨城県、茨城県教育委員会、茨城文化団体連合等が主催する全県的な公募展です。日本画・洋画・彫刻・工芸美術・デザイン・（書・写真）各部門の入選作品を展示します。※（ ）の部門は県民文化センターで展示します。

10月31日（土）～12月13日（日）

### 眼をとじてー“見ること”の現在

芸術作品を「見る」とは、どういうことなのでしょうか。「芸術」とは、必ずしも作品そのものに帰結するものではありません。よって「見えるもの」として、つまりは対象として、必ずしも捉えられるものではないのです。本展では、作品を見ることの意味、あり方について考えるため、「見ること」に新たな意識をもって制作した、ルドン、河口龍夫、岡村桂三郎などの作品を紹介し、まずは「眼をとじる」ことから始めてみたいと思います。

1月2日（土）～1月27日（水）

### 第6回 現代茨城作家美術展

現在活躍中の茨城の作家たちの日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書、写真、デザインを展示します。

2月6日（土）～3月28日（日）

ベルギー近代美術の殿堂 アントワープ王立美術館コレクション展 アンソールからマグリットへ

「フランダースの犬」の舞台として知られるベルギー北部の都市アントワープ。その王立美術館の母体は古く、14世紀にまでさかのぼります。本展では、同館の近代絵画のコレクションから、マグリット、デルヴォー、アンソール、クノップフ、スピリアールトラ、ベルギー近代美術を代表する画家たちの作品を紹介します。アントワープ王立美術館の近代絵画コレクションを日本で一同に紹介するのは、今回が初めてとなります。

#### 茨城県近代美術館 平成21年度の常設展

4月15日（水）～6月14日（日）

常設展1

新収蔵品を中心に

4月15日（水）～7月12日（日）

常設展2

木村武山杉戸絵展

6月16日（火）～8月9日（日）

常設展1

茨城の作家と日本の近代美術1期

7月14日（火）～9月23日（水・祝）

常設展2

水を描く

8月11日（火）～9月23日（水・祝）

常設展1

茨城の作家と日本の近代美術2期

10月31日（土）～12月20日（日）

常設展1

珠玉のコレクション

10月31日（土）～1月17日（日）

常設展 2

珠玉のコレクション

12月22日（火）～2月14日（日）

常設展 1

茨城の作家と日本の近代美術

1月19日（火）～4月11日（日）

常設展 2

人間像の表現

2月16（火）～4月11日（日）

常設展 1

茨城の作家と日本の近代美術 4期